
地域開発みちの会・ウィルあいち情報ライブラリー

「女性の貧困」のパネル展示と アンケート調査



目 次

- 1 「女性の貧困」に関する展示・・・・・・・・・・・・・1
- 2 女性の人生スゴロク・・・・・・・・・・・・・2
- 3 アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・3
- 4 アンケートのまとめ・・・・・・・・・・・・・7
- 5 展示説明者報告・・・・・・・・・・・・・8
- 6 ウィルあいち情報ライブラリーより・・・・・・・・・・9
- 7 総評・・・・・・・・・・・・・9

展示・説明風景



1 「女性の貧困」に関する展示

【期間】 2015年5月12日より6月16日

【場所】 愛知女性総合センター（ウィルあいち）情報ライブラリー

【目的】 「女性の活躍推進」が、国の政策に取り上げられている一方、深刻化している「女性の貧困」「子どもの貧困」「高齢者の貧困」について考えます。

「地域開発みちの会」が2014年度ウィルあいちフェスタで作成した「2014女性の人生スゴロク」を活用して、人生の困難に遭遇して「貧困」におちいる女性の問題に対し、今を生きる仲間としての共感と知恵の共有を目的とします。

- 【内容】
- ①地域開発みちの会の紹介
 - ②深刻化する女性の貧困や子ども、高齢者の貧困に関するデータ
 - ③2014年度ウィルあいちフェスタで地域開発みちの会が開催したワークショップ「2014女性の人生スゴロク」で作成されたスゴロク
 - ④「貧困による問題」の事例を集めた新聞記事のスクラップ



地域開発 みちの会 とは・・・

目的
男女共同参画社会の実現を目指して、名古屋・知多地域における女性の資質向上を目指すとともに、地域に即した課題と取り組み、地域の発展に寄与する。

発足年月日
昭和62年4月15日

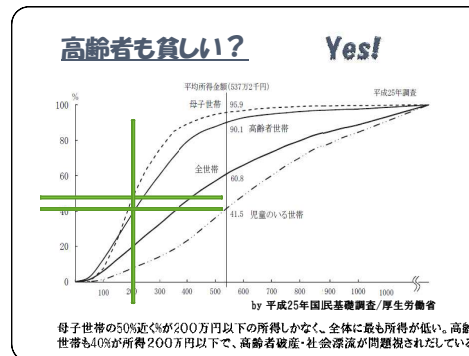
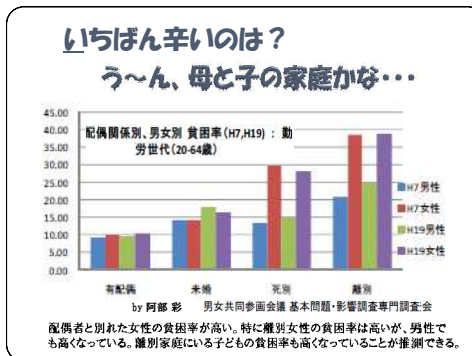
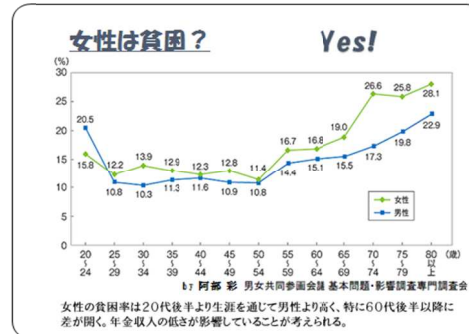
会員資格
愛知県地域婦人問題開発研究会修了者
愛知県男女共同参画社会支援セミナー修了者
愛知県男女共同参画人材育成セミナー修了者
会の趣旨に賛同し、入会を申し出て役員会で承認された者

会員数
平成27年度会員数 90名

貧困ってなに？

- ☆ 衣食住を手に入れるのがムツカシイ(絶対的貧困)
#戦後の日本、発展途上国の庶民
- ☆ 私だけ、うちだけ貧乏(相対的貧困)
「等価可処分所得の中央値の半分」
 - * 貧困線: 122万円(月収10万円の生活)
 - * 相対的貧困率(貧困線に満たない世帯員の割合): 16.1%
 - * 「子どもの貧困率」(17歳以下): 16.3%

by 平成25年国民基盤調査/厚生労働省



2 「2014 女性の人生スゴロク」

目的：生まれてから死ぬまでの女性の人生をスゴロクにしてみることで、いろいろな生き方があることに気づく。人生の中で降りかかる思わぬ災難をどう乗り越えるか、皆で話し合うことにより人それぞれの考え方・価値観の違いを学ぶ。視野を広げ、多くの情報を得ることで、心豊かなより良い人生に向かう糧とする。ひとりでは硬直しがちな思考に想像力を働かせるためのグループワークを行う。

スゴロクの作り方・遊び方

対象：すべての年代の女性のグループ（3人～5人まで）

用意するもの：他人の人生から学ぶ気持ち

人生に降りかかる災難のカード（3枚）

人生を進めるタイムライン(ライン入りマスキングテープ)

人生の分岐点を示す絵カード

出会いを受け止めるココロ

前に転がるサイコロ



*使用上の注意：決してひとりでは遊ばないで下さい。



これからのあなたの人生の応援をしています。

スゴロク完成品



3 アンケート調査と結果

【目的】ウィルあいちの来館者を対象に下記3点に関する感想や意見を尋ね、その結果を男女共同参画推進の観点からまとめる。

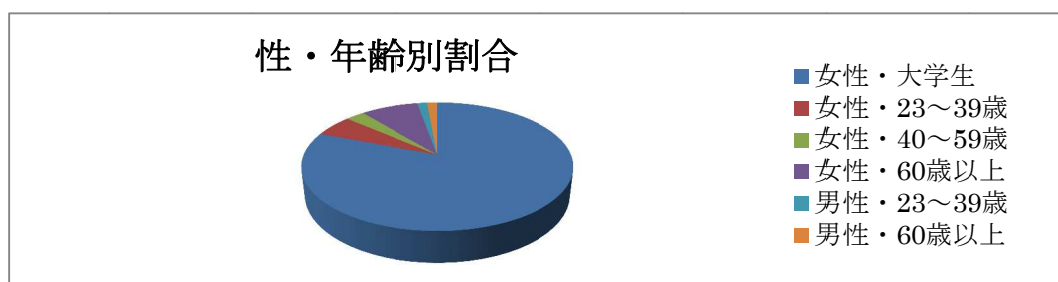
- ① 「女性の貧困」「女性の人生」に関する展示
- ② 女性総合センターの存在
- ③ 「地域開発みちの会」の活動

【結果】

◆アンケート回収枚数 73枚

◆性別・年齢

| | 大学生 | 23～39歳 | 40～59歳 | 60歳以上 | 合計 |
|----|-----|--------|--------|-------|----|
| 男性 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 女性 | 59 | 4 | 2 | 6 | 71 |
| 合計 | 59 | 5 | 2 | 7 | 73 |



◆就労状況

| | 派遣 | 契約 | パート | その他 | 就学 | 無回答 | 合計 |
|-----|----|----|-----|-----|----|-----|----|
| 就労 | 1 | 1 | 5 | 2 | | 2 | 11 |
| 非就労 | | | | 1 | 59 | 2 | 62 |

◆大学生の就労希望について

| | 決めている | 決めていない | どちらでもない | 合計 |
|-------|-------|--------|---------|----|
| 将来の職種 | 14 | 19 | 26 | 59 |

| | 希望する | 希望しない | どちらでもない | 合計 |
|------|------|-------|---------|----|
| 長期就労 | 31 | 12 | 16 | 59 |

◆「女性の人生すごろく」についての感想

| 気付きがあった | 特に無い | 無回答 | 合計 |
|---------|------|-----|----|
| 49 | 19 | 5 | 73 |

★気づきのあった点

〈女性・大学生〉

- ・人生いろいろなことがあると感じた
- ・自分では想像できない人生が書かれてあった
- ・人生スゴロク大切だと思った
- ・女性でも色々なことが起こり得る（昔とは違う）のだと思いました
- ・女性の人生で何もなく幸せな人生を送る人は少ないと思った
- ・この先何があるかわからないので、非常時のことも考えておくべきだと思った
- ・自分の人生の見直しになる
- ・今問題になっている介護などしっかりスゴロクに入っていた
- ・楽しいことがあれば辛いことや、大変な時期もあるけれど、それをどう乗り越えて行くかが大事だとわかりました
- ・順風満帆な人生を歩むことは難しいと思った（離婚や再就職、家庭内トラブルなど）
- ・良いことばかりでなく、災難カードを使っているところが現実に近いと感じました
- ・「人生スゴロク」は、人生における様々な問題も含めて作られていて、女性の人生について考えさせられた
- ・母子家庭が特に貧困で苦しんでいるという点
- ・いろいろな人生を考えるきっかけになった
- ・おもしろいな、と思った
- ・結婚年齢が高かった
- ・人生の中では色々な困難があるけれど、そのようなことをのりこえることも含めていい人生がおくれるのではないかなと思いました
- ・結婚などで仕事など大きくかわっていた
- ・皆DVを恐れていたたり、幸せな生活を望んでいる
- ・自分たちの歳ではゴールが死であると考えることが少ないこと
- ・結婚がゴールではないというのが深いなあと思った
- ・皆大変そうな人生を送っていて、自分のせいで人生が崩れるのはいいけれど、相手の男性のために崩れるのは嫌なのでしっかり相手はきめようと思った
- ・女性の隠れた貧困について
- ・結婚が終わりじゃない
- ・結婚してから現代の女性は、色々なことを経験している
- ・人生はまだこれからあだなあ、と思った
- ・色々な人生の道があると思った
- ・女をがんばって生きよう！
- ・最近になり、女性の活躍の場が広がった
- ・80歳までの人生サイクルを考えており、いろいろ長い目で人生を見ていてすごい
- ・皆最後はしあわせに終わりたい、ということは共通しているんだなと思った
- ・将来 何があるかわからないと思った
- ・不運な出来事をいれることで、リアリティーがあって、作ってみたいと思った
- ・みんな 最後がいい事があるように思っている点

- ・たくさんつらいこともある
- ・女性は苦勞がたくさんある気がする
- ・離婚や病気、DVなどトラブルにあっている方が多かった

〈女性・23～39歳〉

- ・予定調和でないところがいい
- ・人生は良いことばかりではないと思いました
- ・楽あり、苦あり、でも、スゴロクみたいになれない人はどうすればいいの？
人生詰んだ人のゴールはGAME OVERですか？

〈女性・40～59歳〉

- ・人生はいろいろ 山あり谷あり。しかし、どんな人生を歩んでも死亡率 100%

〈女性・60歳～〉

- ・0才児からの環境が大切
- ・いろいろな人生があり 自分がいつどうなるかわからない
- ・親、夫、子ども、自分との関りの中で苦難が山積み その中で、社会とどう向き合って生きていけるのかがポイント（幸・不幸の）
- ・あまりにも自己とちがう 私は幸せすぎる
- ・人生には様々な困難（→離婚とか親が死ぬとか）がおきるものだと思った

〈男性・23～39歳〉

- ・女性の貧困の問題について考えさせられた

◆「地域開発みちの会」の活動への関心

| 興味を持った | 特に無い | 無回答 | 合計 |
|--------|------|-----|----|
| 28 | 34 | 11 | 73 |

★興味を持った点

〈女性・大学生〉

- ・女性に対して深く掘り下げて調べている
- ・みんな仲良く楽しそう
- ・女性の活動というものに初めてふれた気がしたし、皆さんの話を聞いたら心強い（笑）
- ・すごく作ってたから
- ・地域に貢献していこうと思った
- ・いろいろな市で動いていて、私の住んでいるところはなかったけど、どんどん女性が働いているなと思いました
- ・人生経験の長い人たちからの活動は、1つ1つの言葉がぐっときました
- ・まずは地域からジェンダーについて取り上げ、いずれ、全国にこの活動と活動内容が広がればいいなと思った
- ・人生経験をより多く積んだ方の話を聞く機会が持ててよかった
- ・高齢者や女性の貧困度をデータ化していて面白いと思いました
- ・貧困は大変なこと

- ・人々の人生を良いものにしようとアイデアを出し合っている点・女性の賃金が安いとありましたが、それはこういった職業でのことですか
- ・女性の貧困を考えたりして見えないところも考えるいい機会というかきっかけになるのでいいことだなあと感じました
- ・調べ方が丁寧でわかりやすかった
- ・相談を受けているところ

〈女性・23～39歳〉

- ・ぜひスゴロクに参加したい
- ・このような活動をする団体は必要だと思いました

〈女性・40～59歳〉

- ・地域に根ざした目標とテーマを考えている点

〈女性・60歳～〉

- ・色々な価値観の人と話し合う機会がある
- ・女性の時代とか言われる今 こういう活動があることは頼もしい
- ・男性だけに政治をまかせては 平和や自然破壊にはどめが効かない

〈男性・23～39歳〉

- ・講師に嘉田由紀子さんがいたことをパネルで見て知ったから

◆その他の感想 49名

〈女性・大学生〉

- ・おもしろくわかりやすい説明でした。私の人生すごく楽しみたいです
- ・良いお話を聞かせていただけて感謝しています
- ・女性のためにこのような施設があることを初めて知ったので、女性には心強い
- ・普段あまり本を読むことがないので、たまには図書館を訪れるのもいいな、と思いました
- ・ウィルあいちというものを今日、初めて知り、何で知らなかったんだろうと、思わせるくらいすてきな場所だと思いました。また来たいです
- ・施設がキレイで、図書館も本が探しやすかった
- ・これから新聞などで女性に関するものを意識的に読もうと思いました
- ・ウィルあいちに初めて来て、色々の活動の展示があったり、本もたくさんあると知れて、今後も利用しようと思いました
- ・女性の貧困率が高いことについて知れて良かったです。自分が貧困に困らないように一生懸命働きたいと思いました
- ・女性の人生は結婚がおわりじゃないという言葉が印象的でした
- ・ウィルあいちに初めてきたが、こういった施設だと思わなかったです。家が近かったら使っていたなあと思います
- ・波乱万丈な人生でどれも最終的には幸せになっていて、とてもおもしろかった
- ・説明が分かりやすく聞きやすかったです
- ・女性の人生はまだ男性ほど安定していないのだということが改めて分かりました

- ・みちの会の人たちはすごくやさしくて、ぜひ話を色々して、聞いてみたいと思いました
- ・「格差社会」というワードは最近よく耳にするので、どういったことか知るきっかけになり、自分でもっと詳しく調べていきたいと思いました。
- ・結婚までの道のりは、どんな感じなのかたのしみになった

〈女性・23～39歳〉

- ・新聞記事のパネルは最近の事情が分ってよいのですが、見づらさを感じました
- ・先日の名大の女子学生の人生なんかはスゴロクにしたらどうなるかと思った。
- ・ゲームにできるのはそれがもう終わりの方が近いからなのか？
- ・若輩の身には、人生は一寸先は闇

〈女性・40～59歳〉

- ・いろいろな人生があり、十人十色だという事を実感しました
- ・スゴロクをして学ぶものが何かよく分らなかった

〈女性・60歳～〉

- ・いつの世にも戦争がはびこっている 救世主はいるのか？
- ・人と人とは助け合い励まし合って生きて行かなければいけないと思います
- ・女性の人生スゴロクを発案したことが既におもしろい

〈男性・23～39歳〉

- ・良かったです

〈男性・60歳～〉

- ・この方の講演は一度聞きたい

4 アンケートのまとめ

アンケートの回答者はほとんどが女性であった。地域開発みちの会の会員により学外授業中の女子大学1年生（5回）および男性を含むグループ入館者（1回）に展示説明ができた。共催団体のウィルあいちライブラリー職員の案内もアンケートの記入を促す大きな力になった。

「大学生の就業」では、希望職種を決めている割合は24%だが長期就労を希望する割合は53%で、働く意欲はかなり大きいことが分った。

「女性の人生スゴロク」については67%に気付きがあった。学生の気付きの第一は「人生いろいろなことがある」ということで、「人生を考える」ことにつながり、「結婚がゴールではない」という認識に達した。年長者は、スゴロクが「予定調和」に達しないことを評価していた。いずれも、「女性のひとり親世帯の貧困」などに深い注意を向けていた。

「地域開発みちの会」の活動への関心は38%にとどまった。しかし、女性の貧困問題等の啓発活動に対しては全年代で好意的な評価が得られ、「ぜひスゴロクに参加したい」という意見もあった。

「その他の感想」では、学生から「展示と説明が良かった」という評価が得られた。また、ウィルあいちの存在に対しても、「知らなかったが、良い場所だ」という意見が多く得られた。

貧困問題をはじめとした女性をめぐる社会問題について、さらに情報を求めていこう、という意欲的な意見が出たことなどは、今回の展示による最大の成果であったと思われる。

5 展示説明者報告

「男女共同参画」という言葉には馴染みが少ない世代の男女6名に説明をした。ジェンダーバイアスも強い年代ではという先入観があったが、関心を持ってパネルを見てくれた。

女性たちからは、「国際比較して、初めて先進国とは言えない状況に衝撃を受けた」、また、性別役割分業に付いても「自分の家族にはこんな古い意識はない」という意見が出たが、男性は「フーン」という感想。

理工系進出について、男性は「女性には別の特技があるのではないか」という感想で、性別役割分業意識が残っているようだった。しかし女性は、歴史的には立派な科学者や医者がいるので、特性がないとは言えない、もっと『リケ女』が増えると良いが、という感想だった。

「せっかく自主グループが展示するなら、地元の調査を具体的にお知らせしたらどうか」という声もあった。
(地域開発みちの会 油田淑子)

若い大学生たちは、多分自分達とは縁遠い見知らぬ世界に飛び込んだという気持ちを持ったに違いない。しかし彼女たちは意外と冷静に判断している。「順風満帆な人生を歩くことは難しい、と思った。」「母子家庭が特に貧困で悩んでいるという点。」「結婚が終りじゃない。」など焦点をとらえて理解したことが、アンケートの結果に表れている。

日本にも格差が大きく広がり、特に下位層の相対的貧困率が上昇している。豊かではない子どもの方が働く意欲を失っており、労働力として市場に参加していない。貧困の連鎖を断つには、子どもにかかる教育費や医療費の補助が有効である。これからの日本は人口減少する。将来を背負う大学生には介護や子育ても含め様々な社会問題に対して視野を広く持つ生き方をしてほしいと願うばかりだ。
(地域開発みちの会 河津百合)

ウィルあいち情報センターと地域開発みちの会名古屋ブロックとの共催「女性の貧困」パネルは5月12日から1か月間展示された。水野さんと私は、5月13日金城大学の学生たちの来館時に説明役を担当。

この春希望に胸を膨らませて大学に進学し、初めてウィルあいちを訪れた学生もかなりいた。女性問題の縮図ともいえる「女性の貧困」「女性の人生すごろく」の内容は彼女達にとってちょっと厳しいものがあったかもしれない。しかし73人中49人が「気が付があった」と回答。「自分では想像できない人生が書かれてあった」「いろいろな人生を考えるきっかけになった」「結婚してから現代の女性は色々なことを経験している」「自分の人生の見直しになる」などなどしっかりと受け止めてもらえたことは素直に嬉しかった。

(地域開発みちの会 鈴木多恵子)

女性にとって結婚がゴールであるという価値観が若い女性にもまだまだ多いと思った。理由の一つとしては恵まれた私学のお嬢さんたちであったこともあるかもしれない。中には女性ながらたくましさを感じる子もいたがほんの少数。結婚がゴールと考えているようでは男女共同参画も進まないと思った。女性自身が自らを生かすために、依存ではなくお互いを尊重し助け合う関係をつくり、変化と失敗を恐れず新しいことにチャレンジして新たなものを生み出すこと、時間をかけて他者に向けてるこころを育てていくことが出来れば・・・女性の特性が生かされ年齢を問わず活躍する場所も増やしていけるのではないかと考えています。

(地域開発みちの会 水野由布子)

女子大学生たちに何回か説明を重ね、本当に興味を感じている顔、つまらなさそうな顔、真面目に聞く顔など、いろいろな反応を見た。そして、あらためて自身がどこまで「女性の貧困」を考えているのか、を顧みた。長い生活・社会体験を持つ私自身は、「板子一枚下は貧困」ということは容易に実感できるし、「今貧困に陥っていないのは運が良いだけ」と言える。一方、年長者としての私は、若い彼女たちが「貧困」を実感しているとしたら、どんな生活を送っているのかと心配せざるを得なかっただろう。向学心から知り、驚く気持ちを別にすれば、“詰らない、よく分らない”くらいの実感が普通なのだろうとも思った。しかし、同時に「頭の片隅にしっかり入れておくと良いよ」と強く警鐘を鳴らしたかった。

スゴロクのワークが授業に取り入れられないだろうか。テーマは「貧困」でなくても、「いかに生きていくか」、人生の多様性を考えるための良い手段となると思われる。

(地域開発みちの会 森田登喜子)

6 ウィルあいち情報ライブラリーより

ウィルあいち情報ライブラリーでは、地域で男女共同参画に向けて活動する団体との連携・協働・ネットワークづくりに取り組んでいます。今回、貴団体に参加いただいた「団体活動PRパネル展」もその一つです。「5月に見た“女性の人生スゴロク”を子ども向けに作りたい。」といった問い合わせが今もあるほど、“人生スゴロク”というツールは利用者の関心を捉えたようです。また、金城学院大学の佐藤祈美栄先生の学外授業受入にもご協力いただき、若年層の利用促進と世代間交流を図ることができました。

「女性の貧困問題について考えさせられた。」「格差社会について自分でもっと詳しく調べていきたいと思った。」「まずは地域からジェンダーについて取り上げ、全国にこうした活動が広がれば良いなと思った。」といったアンケートの声を、今後の事業に活かしていきたいと思えます。

(ウィルあいち情報ライブラリー 原木いずみ)

7 総評

2014年度のウィルあいちフェスタで「女性の人生スゴロク」を拝見し、「人生経験豊かな『みちの会』の皆様ならではの時宜を得た企画であり、一人でも多くの若い方々、とりわけ女性たちに伝えたい内容だ」と強く印象に残っておりました。

折しも2015年度から大学で「男女共同参画社会」の講義をすることとなり、ウィルあいち情報ライブラリーの見学を課題学習に組み入れたところ、「みちの会」様から「解説付きのパネル展示」という望外の御協力を頂くことができ、感謝の気持ちで一杯です。また、皆様とウィルあいちが連携して若い層への働きかけを実現できたことは、素晴らしい成果であり、大いに評価する次第です。

私自身、講義に対する感想やレポート等から、専攻を問わず「女性や子どもの貧困、格差社会」について、予想以上に関心を持つ学生が多いことが分かり、「鳴らすべき警鐘はしっかり鳴らさなくては」という気持ちを強くしております。そうした目で「みちの会」の皆様の活動をみますと、次世代への熱い想いと使命感がひしひしと伝わってきます。皆様の活動に改めて敬意を表するとともに、活動の一層の深化を期待します。

(金城学院大学 佐藤祈美栄)

地域開発みちの会は、未知なる路を開発するために
未知なる道を拓き、女性が活かされる社会を創ろう
という想いでつくられました。
活動・学習によって会員自身が内面的に充ち、新た
な力を得て、男女共同参画社会の実現を目指します。



☆☆人生スゴロク・ワークショップ☆☆

それぞれの生き方をスゴロクにして、これからの
自分の人生を考えてみませんか？

“女性の人生スゴロク”のワークショップ・イン
ストラクターを派遣します。

市町村、グループ等の研修にぜひご活用ください。

発行日 平成28年2月29日

発行責任者 地域開発みちの会・展示アンケート プロジェクト

森田登喜子 080-6590-8483

水野由布子 080-6947-7017